

令和3年度 放課後等デイサービス だいち 自己評価表

	設問	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標・工夫展等
備環境・体制整	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	職員の配置数は適切であるか	○			
	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮がなされているか	○			入口、トイレに手すり(今年度は身体障害児なし)
業務改善	業務改善をすすめるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか		○		目標設定と振り返りは実施しているがマニュアル化していない。少人数なのでいまのところスタッフ会議事前打ち合わせや振り替え等で課題のあぶりだしてきている。
	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			
	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	コロナ禍で探すことが困難であった
	職員の資質の向上のために、研修の機会を確保しているか	○			県主催権利擁護・虐待防止(管理者)研修・新職員の強度行動障害・福祉有償運送講習受講
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子供と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			
	子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			○	定期的に通院している児童の保護者から情報として受け取ることはある。次年度はPEP-Rを実施したい。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○			毎月の会議の中で、新しいアイデアを出し合い実践している
	平日・休日・長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			
	子供の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等でサービス計画を作成しているか	○			
	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			
	支援終了後には、職員間で必ず打合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○			
	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
関係機関や保護者との	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			自立活動・学校との連携・創作活動(季節ごと)地域交流・余暇・リラックス等
	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			教育委員会主催の連絡会等に児発菅出席
	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子供の下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			
	児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			
	場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			
	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			○	企画はしたが、コロナで実施不可となった
放課後学童クラブや児童館との交流や、障害のない子供と活動する機会があるか			○	コロナ感染拡大のため不可	

連携	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	コロナ感染拡大のため未開催
	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子供の発達状況や課題について共通理解を持っているか	○			
	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	ほとんどが、就労し他事業所と併用のため働きかけても参加者が
保護者への説明責任	運営規程・支援の内容・利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			
	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	ほとんどの保護者が、就労しており且つ他事業所と併用のため参加者がいない。
	子供や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子供や保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子供や保護者に対して発信しているか	○			
	個人情報に十分注意しているか			○	守秘義務契約したにも退職した職員からあり。今後の対応を検討し実施する。
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	コロナ禍のため今年度は不可能であった
非常時の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			コロナ感染予防の勉強会を複数回実施。緊急時には避難訓練前後に確認。
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子供や保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体的拘束を実施することはないが、虐待防止委員会と身体拘束等についてのマニュアルを作成中
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			
コロナについて	今年度はコロナ感染予防で長期休校や外出制限等不自由があったが活動に創意工夫に努めたか	○			
	だいちの感染予防(原則マスク・消毒・検温等)は十分であったか	○			
	次年度もコロナ感染は続くと思われるが、今後のやるべき感染予防や課題について検討しているか	○			

増やした物品等	読み聞かせ絵本・図鑑・トランポリン等
設備・バリアフリーでの改善点	とくになし
今後の活動について	コロナが収束している間は外出活動を増やし、社会性がついていくよう努める。次年度も運動不足にならないよう室内で運動できる遊具を使ってプログラムを実施していく。苦手な指先の微細活動を行う。

総括

全体としては、改善部分もあったがコロナ禍で社会との交流や学校との連携等厳しい点が多くあった。

- ◆元職員の個人情報流出は非常に残念であった。知合い同士の親密性が起こした事と思われるが、権利擁護の意識をより高める必要を感じた。
- ◆コロナで保護者に施設を見てもらうことが出来なかった。
- ◆送迎の時にやってほしい活動や好きなもの等については保護者に常に聞いているが、なかなかでてこない。
- ◆県主催の権利擁護虐待防止研修はスムーズであった。社会福祉協議会主催の虐待防止研修は、フリーズ等で受講することが難しかった。全職員へ伝達研修を行い、障害理解と権利擁護への理解を深められるよう努めた。
- ◆人員確保の確保が非常に難しかったため、今後の大きな課題となると思われる。

<自己評価表(ガイドラインとは)>

◆これは、平成24年4月に創設された放課後等デイサービス事業が全体的に見てまだ一定の質を保てていないことから国が定めたガイドラインに基づくものであり、評価をすることによって、より質の高い事業実施ができるために使用するツールです。

◆評価表の中で、改善点の指摘が多いことが直接的に低い評価につながるという意味ではない。

◆改善点に気づき、より良い支援を提供する視点をつくっていける指導員を育成することが重要であると考えている。

<だいちの考える評価ステップ>

保護者等による評価＋職員による自己評価⇒改善点の提案⇒分析・結果。改善案の公表⇒目標に添って支援の改善

◆改善が必要な点については、物理的に可能な事においては、速やかに改善をおこなっていく。

体制等や他事業との連携等については、市内の他事業所との連携の確立が求められる。

当ガイドラインの項目に限らず、指導員・事業者・保護者からの指摘等があれば随時項目を追加し、よりよい事業体制が整えられるよう努めていく。